



校報 水糸者

No. 874

29年度・第47号

7月の種市小学校・統一テーマは、

「1学期のまとめ」

明日から7月です。1学期の登校日数も今日を含めて、あと19日間だけとなりました。

7月は1学期のまとめと仕上げを行う月となります。

1学期にできた事とできなかった事を整理・分類することで、その原因と対策、補充について、時には夏季休業も使いながら確実にやる事が次につながっていきます。

子ども達に「やり遂げた経験」を多く味わわせながら『自己肯定感』を高めていく月としたいものです。

また、蒸し暑い日が続くこの時期は、子ども達は体調を維持するのに苦勞する季節です。水泳学習も始まっていますので、疲れが残らないような規則正しい生活を送る事が大切になってきます。この時期、体調を崩して1日でも休むと、学習に大きな遅れも生じるだけでなく、学習効果も半減してしまいます。

この時期も『早寝・早起き・朝ごはん』が全ての基本です。保護者の皆さん、子ども達の健康管理につきましても、よろしく願いたします。



種市小に「新しいお友達」



27日に埼玉県から新しい友だちが2名（姉妹）加わりました。さっそく27日（火）全校朝会で全校児童に紹介をしました。

（お名前）

田中 彩瑛さん

（たなか さえ）

（学年） 3年生

（転出校）

三郷市立彦郷小学校

（ひとこと）

運動が好きです。

（一日過ごしてみ）種小は

すっごく楽しいです！



（お名前）

田中 伶さん

（たなか れい）

（学年） 6年生

（転出校）

三郷市立彦郷小学校

（ひとこと）

家庭科が好きです。

（一日過ごしてみ）種小は

すっごく楽しいです！

2人ともすぐに学級に馴染み、元気にすごしています。

新しいお友達を迎え3・6年生だけでなく全員が喜んでいきます。

2人の転入生を加え、29年度の種市小学校は211名となりました。

なお、所属子ども会については、すでに該当地区会長さんに連絡しています。

地区懇談会へのご参加、ありがとうございます



今年度の地区懇談会が、27日に本校を会場として150名ほどの保護者、地域の方々に参加いただき開催しました。



本校の昨年度まで地区懇談会は、各地区の公民館等で行ってきたものですが、今年度から本校だけを会場に実施したものです。全体会と各地区に分かれての分科会で、子どもの実態や健全育成などについての情報交換や協議を行いました。スポ少を含む習い事などで、なかなか家庭学習の時間が確保できない悩みや、ゲームやスマホ、ラインなどを使う場合の家庭内のきまりと守られ方など、活発に意見が交わされました。子ども達の様子がよくわかり、今後の学校経営に役立つ有意義な地区懇談会となりました。懇談会の内容については、後日の校報でお知らせいたします。ご参加いただいた、皆さん、ありがとうございました。



「わが子がキレル本当のワケ」って？



今回の地区懇談会でも話題となった情報機器や情報システム（スマホ、ゲーム、ラインなど）の子どもへの与え方、有効な活用の仕方については、全国どこでも悩みとなっており、それを要因とする犯罪被害や健康被害、いじめ、学力低下など、諸々の問題が連日発生し、これらへの対応が喫緊の社会的課題となっています。

先日のNHKスペシャル「ニッポンの家族が非常事態！？第1章わが子がキレル本当のワケ」では、最新の脳科学に基づいた、思春期の脳の仕組みを科学的に分析していました。その番組の中では、ラインいじめに至る経過も、実際の中学生を使い実験をしていました。その概要を紹介します。



どうしてラインでいじめが発生するのか…

6名の普通の中学生に、自由にLINEで会話をさせていたら、間もなく会話が荒れ始め、30分後にはケンカになってしまった。

〔この実験に参加した6名の中学生の感想〕

LINEのやり取りは、顔が見えないから強く言われると、結構ショックを受ける。だから、自分も強く言い返してしまう。実験だとわかっていてもちょっと傷ついた。

〔この実験を行った塩田准教授（静岡大学教育学部）の分析〕

「これを送ったらどう思うだろう」と想像する前にLINEを返さないと「空気が読めないやつ」になってしまう。それがきっかけで、「いじり」が「いじめ」となる。

今の子ども達にはトラブルの見積り甘さがあるのではないか。

〔この番組にゲストとして出演していた明和教授（京都大学大学院・脳科学）の分析〕

スマホでのコミュニケーションは文字情報だけ。「うれしい」と言っているが、心の中では「悲しいよね」と想像するのは『前頭葉』。想像する力や相手の心を読み取ろうとする力は、顔を突き合わせたコミュニケーションだからこそ。スマホでのコミュニケーションと顔を突き合わせたコミュニケーションは全然質が違う。脳への刺激も違う。



脳（前頭前野）を刺激しない生活の繰り返しや、脳を使わない生活環境（人間関係の希薄さ、多忙な子ども、情報過多）によって、キレル子が出現する事を科学的に教えてくれた、今回のNHKスペシャルでした。〔次号以降も続く〕